

[開園時間]

期 間	無 料 区 域	有 料 区 域
令和2年9月6日～当面の間	8:00～18:00	9:00～17:30

※入場券販売締切は閉場時間の30分前。
 ※新型コロナウイルス接触機会の低減のため、令和2年9月6日より開園時間・閉場時間が変更となりました。

[休場日]

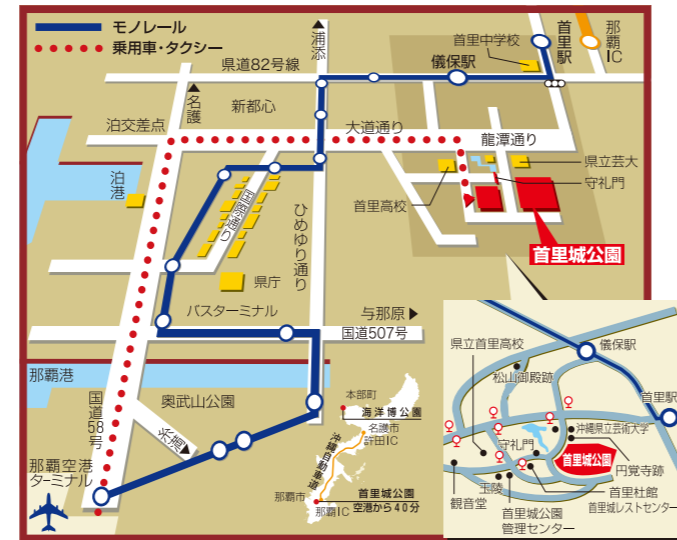
7月の第一水曜日とその翌日

[入場料金]

	大 人	中人(高校生)	小人(小・中学生)
一般料金	400円	300円	160円
団体料金	320円	240円	120円
年間パスポート	800円	600円	320円

- ・首里社館の自動券売機でも入場券の購入ができます。
- ・団体は20名様以上。
- ・モノレール(ゆいレール)のフリー乗車券(一日券・二日券)をご利用中のお客様は、首里城公園券売所窓口にて乗車券の提示により、団体料金の適用となります。
- ※フリー乗車券の有効期限内において、一枚につきお一人様一回限りの割引となります。

[アクセス]



※駐車場に限りがありますので、バス、タクシー、モノレール等の公共交通機関をご利用ください。

お得! 首里城公園年間パスポート

入場料2回分の料分で、1年間何度でも入場できるお得なパスポート。

- 更新特典**
- ① 首里城公園直営売店のオリジナル商品がパスポート提示で10%割引!!!
 - ② 抽選で1万円分の商品券を進呈!



御城だより

UGUSHIKUDAYORI

2020
12

琉球王国時代の風が吹く 首里城祭開催!

UGUSHIKUDAYORI TOPIC

火災後の残存物を展示 首里城復興展示室

「ミュージアムショップ球陽」オープン!

Column

世界遺産・首里城正殿遺構を公開中

新型コロナウイルス感染拡大防止のために お客さまへお願い

- マスクの着用
- 体調不良時の来園自粛
- ソーシャルディスタンス
- 横並びでのテーブル利用
- キャッシュトレイの利用
- 手指の消毒

安心してご利用いただくために
ご協力よろしくお願いたします。

未来へ残そう沖縄の心 貴重な美術工芸品等の収集・復元・保存に向けて

2019年10月31日、首里城は火災で焼失し、貴重な美術工芸品も400点以上が焼失したと見られています。偉大な先人たちが残してくれた貴重な遺産を再度収集・復元・保存し、首里城で展示できるように、首里城基金の造成にみなさまの絶大なご支援、ご協力を賜りますよう、心からお願い申し上げます。



首里城基金の仕組み

詳しくはこちら



題字：御城だより
 御城(ウグシク)とは首里城の敬称。首里では今でも親しみを込め、この呼び方が使われています。

表紙：国王・王妃出御
 一般公募で選ばれた凛々しい国王・美しい王妃の姿を間近でご覧いただけるイベントです。令和2年度は、世誇殿前に行われました。

御城だより Vol.10 秋号 季刊誌

〒903-0815 沖縄県那覇市首里金城町1-2
 TEL: 098-886-2020

[発行日] 2020年12月

[編集・発行] 国営沖縄記念公園(首里城地区)、県営首里城公園
 指定管理者 一般財団法人 沖縄美ら島財団

URL <http://oki-park.jp/shurijo/>



SHURIJO CASTLE FESTIVAL 2020



首里城焼失からちょうど一年となる令和2年10月31日から11月3日にかけて、多くの方々の復興への思いとご協力に感謝し応えるため、「令和2年度・首里城祭」を開催しました。

今年の首里城祭は、首里城復興を祈念して首里城公園内において様々なイベントを催しました。来園者が安全に観覧できるよう、新型コロナウイルス感染拡大防止に万全の対策を施しながらの開催で、規模も縮小しましたが、開催期間の4日間で約17,500人の方々に来園いただき、首里城復興の機運を高めることができました。

琉球王国時代の風が吹く 首里城祭開催！

首里城プロジェクトマッピング& 首里城復興沖縄空手演舞会

首里城公園内(歓会門、北城郭、広福門、京の内)でプロジェクトマッピングを実施しました。夜の首里城が映像と音楽に彩られ、昼間とは一味違う雰囲気を出して好評でした。また「広福門」ではプロジェクトマッピングの映像と空手演舞が競演。迫力ある空手家の演舞を間近でご覧いただきました。



華やかなる国王・王妃出御

晩秋の空の下、今年の「国王・王妃出御」は世誇殿(よほこり でん)前と後之御庭(くしめうな一)で行われました。

首里王府の儀式や祭典は60以上に及ぶといわれ、正月規式をはじめ重要な儀式には国王みずからが臨席し、多くの家臣たちの前にそのお姿を現しました。これが出御です。首里城のなかでも重要な儀式が挙行される場が正殿前広場の御庭(うな一)であり、ここが政治・行政を担う男性たちが集まる「表(おもて)」のエリアにあたります。したがって、例年は御庭に出御しますが、昨年の火災によって正殿を失ったため、今年は「奥(おく)」にあたる御内原(おうちばら)での実施となりました。国王の厳かな姿、王妃の麗しい姿に、お客様の注目が集まりました。



国王行幸を再現 「琉球王朝まつり首里・古式行列」開催！



令和2年11月3日、「琉球王朝まつり首里・古式行列」を開催しました。古式行列は王国時代、旧暦の正月三日に国王みずから首里城下にある3つのお寺を参詣した「三ヶ寺行幸(さんかじぎょうこう)」を現代に再現したものです。往時の主な行幸先は、第二尚氏初代国王・尚円を祀る円覚寺、歴代の王妃を祀る天王寺、未婚の王子や王妃を祀る天界寺で、いずれも歴代国王の菩提寺や王家にとって重要な寺院です。国王は、輿(こし)に似た御輦(うちゅう)と呼ばれる駕籠(かご)の一種に乗り、行列中は道中楽である路次楽(ろじがく)が奏されました。

古式行列は、琉球王朝まつり首里が首里文化祭と呼ばれていたころから続いており、地元の人々に長く愛されている、首里城と首里の町が一体になる行事です。今回は3年ぶりでしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮して特別な形態をとり、人数やルートを変更して実施。例年は首里城正殿をスタートし、守礼門を通過して龍潭を一周するところ、今年は奉神門(ほうしんもん)を出発して守礼門がゴールとなりました。地元と地元行事を愛する人々の思い、そして首里城復興へのエールが感じられる古式行列でした。



あでやかに伝統芸能公演

首里杜館芝生広場ステージにおいて、琉球舞踊や古典音楽の公演が華やかに催されました。かぎやで風節、四つ竹、鳩間節など様々な演目が披露され、たくさんの来園者に琉球王国時代の歴史文化を堪能していただきました。



みなさまのメッセージが 首里城復興モザイクアートに

首里城焼失から1年が経ち、多くの方から再建の祈念と励ましのメッセージをいただきました。期間中、来園者には色付きシートにメッセージを記入してもらい、それを首里城正殿が描かれたパネルに貼り付けて、ひとつのモザイクアートを完成させることができました。みなさまの温かいメッセージを力にして、復興へ向けてさらに取り組んでまいります。



首里城収蔵品パネル展

首里城火災以降、(一財)沖縄美ら島財団では、首里城基金などを活用して首里城に収蔵されていた美術工芸品の収集を進めています。その現状や修復状況、今後の取り組みなどをパネルにして紹介しました。期間中は、沖縄県立博物館・美術館においても同パネル展を同時開催しました。

関連イベント



首里城復興祈念ライブとステージ

首里杜館芝生広場ステージで多彩なアーティストがライブを行い、首里城祭を盛り上げてくれました。また「復興祈念ステージ」を同時開催し、一般公募で選ばれた方々に首里城復興の思いを発信していただきました。

出演アーティスト
10月31日: 永山尚太
11月1日: 鼓衆 若太陽
11月2日: shaolong to the sky
11月3日: うたばす



「銭蔵」で琉球泡盛パネル展

かつて王府が泡盛を貯蔵していたとされる銭蔵を会場に、琉球王国発祥の泡盛文化を紹介するパネル展を実施しました。泡盛を甕から甕へ移していく仕次体験も開催しました。



勇壮な空手演舞

首里城復興に向けて、地域の空手道場の方々に空手演舞を披露していただきました。

首里城復興 展示室

火災後の残存物を展示



首里城復興展示室では、獅子瓦をはじめ、首里城正殿を彩っていた小龍柱や獅子、石高欄などの石彫刻の残存物を展示しています。室内に入ると、火災前まで首里城正殿の屋根から睨みをきかせていた獅子瓦と目が合って驚くかもしれません。バラバラになってしまった姿は火災の凄まじさを物語っていますが、一方で従来は間近に見ることができなかった石彫刻や瓦の細部をご覧いただけます。

5台設置されたデジタルサイネージでは、それぞれ「首里城正殿：琉球王国の美の結晶」「首里城正殿：瓦と漆塗装」「首里城正殿の美：彫刻・漆工芸」「正殿の火災について」「復興の様子」をテーマとし、画像や動画を交えながら紹介しています。平成の復元時に正殿に彫刻を施しているシーンや瓦を葺いているところ、龍頭棟飾りを設置している様子など、たくさんの職人や技術者が正殿を造り上げていく姿を目の当たりにすることができます。

奉神門の北側に残った瓦を使って再び葺いた瓦も展示していますので、沖縄の青い空に映える赤瓦の色や形を、近くで鑑賞する絶好の機会です。また、過去の展示図録・写真などの書籍やミュージアムグッズをそろえたショップも併設しています。



「ミュージアムショップ球陽」オープン!

令和2年10月31日、首里城公園内にある女官居室に「ミュージアムショップ球陽」がオープンしました。

店内では首里城オリジナル商品をはじめ、伝統工芸品やお土産品を取り揃えています。店内外に備えられた座席では、ショップで販売しているパンやおにぎりなどの軽食を食べながらの休憩もOK。また、設置されている大型モニターやタブレットでは琉球王国の歴史文化や当時の行事の解説や、平成4年の復元工事の様子なども見ることができ、より深く首里城を理解できる場所となっています。



首里城コラム Column

首里城の最も中心的な建物が正殿であり、その土台が基壇です。遺構とは古い建物の一部として残されたもののこと。基壇遺構は、正殿の位置と規模の解明、復元の手がかりとして最も重要な存在です。過去に何度も建て替えられていたという興味深い事実が、基壇遺構の考古学的発掘調査によってわかりました。

世界文化遺産に登録され、国指定史跡でもある「首里城跡」ですが、正殿跡のこの場所を目にするのができるのは、基壇遺構の石積みの一部のみ。多くの部分は保護のため地盤をかさ上げして埋め戻されています。見学用デッキがある場所に広がる足元こそ「首里城正殿跡」であり、地下には遺構が存在しているのです。

正殿の土台にあたる基壇の石積みから、正殿は建て替える度に西側へ拡張されていったことがわかります。発掘調査によって正殿基壇が十五世紀頃にはすでに石積みで造られていたことが確認されており、一番古いものが東側にある石積み(第二基壇)です。琉球石灰岩が用いられ、切り石積みとなっています。

発掘調査によって、この十五世紀の石積みには火災の痕跡が確認されていますが、文献記録で琉球王国時代の正殿火災は三度あったことがわかっています。最初は



正殿基壇の石積み
第2基壇(右奥)と第3基壇(中央)



正殿基壇の石積み 第2基壇(画像下奥)



正殿基壇の石積み
第3基壇と階段跡(中央)

ところで、基壇と遺構ってなに？

首里城の最も中心的な建物が正殿であり、その土台が基壇です。遺構とは古い建物の一部として残されたもののこと。基壇遺構は、正殿の位置と規模の解明、復元の手がかりとして最も重要な存在です。過去に何度も建て替えられていたという興味深い事実が、基壇遺構の考古学的発掘調査によってわかりました。

一四五三年の志魯・布里の乱という王位継承争いによる炎上でした。五六七年も前に火災にみまわれながらも、長い時を超えて存在してきた石積みを、二十一世紀に生きる私達はこの場所を目にすることができます。

遺構の中央石積み(第三基壇)を南側から見ると、L字型になっていて西側の石積み(第四基壇)に接しています。さらによく見ると、L字の短辺にあたる石積みには、御庭に向けて石段状のものが確認でき、形状から正殿正面の階段は直線だったことがわかります。十八世紀初頭の古絵図に直線階段が描かれているので、この頃の正殿の階段は復元されたハの字型とは違い、真つ直ぐだったことがわかります。

世界遺産・首里城正殿遺構を公開中